

REPORT

人類と人形の旅 human with puppet

「人類と人形の旅」human with puppetが「あいちトリエンナーレ2016」とともに無事、閉幕を迎えました。 現場からはレポートが続々と到着! ここでは壮大な“旅”の記憶をホンの少しだけ振り返ってみました。

あいちトリエンナーレ2016並行企画事業
「人類と人形の旅」human with puppet 記念製作
文楽人形オペラ

ひつまじきれんりのたまつばき
『おさん 伊八～睦月連理玉椿～』



このたび縁あって、あいちトリエンナーレ2016並行企画事業「人類と人形の旅」の記念製作として、文楽人形オペラ『おさん 伊八～睦月連理玉椿～』の台本・演出を担当させていただきました。文楽の太夫の語り、三味線という音楽性と物語性を、くりもとようこさん作曲による音楽と、バイオリン、チェロ、パーカッションの演奏、二人のオペラ歌手と女優の歌と演技、そして要の文楽人形二体の演技(操演)で表現しました。人類と人形がいつの時代から旅をしてきたか、不勉強な私の知るころではありませんが、人間の魂を宿す形代とかが信じられ、力を発揮していた頃が始まりではないでしょうか。以前、仕事で辻村寿三郎さんのアトリエで人形を見ました。その仕事に出演する人形だと紹介されたのですが、その人形はとても草臥れていてみすぼらしく頭を垂れて、棒に刺さっていました。ところが、寿三郎さんが手を入れた瞬間、彼女は「生」を宿し、妖艶に輝きだしたのです。その衝撃が忘れられず、演者が人形を操演する前、「死」の状態、「モノ」に過ぎない状態から思つその刹那、そして、再び、操演を外れて死にゆく時も見せたいと考えました。そのことが、「人類と人形の旅」というテーマにも相応しく、人形が物語を司る意味やリアリティもあるのではないかと、勝手に思い描いたのです。それが、始まりでした。

講演会レポート 「名古屋心中と徳川宗春公」

講師：安田文吉(東海学園大学特任教授)

「人類と人形の旅」human with puppetの文楽人形オペラ製作記念講演会として、8月18日、安田文吉氏(東海学園大学特任教授)による講演会「名古屋心中と徳川宗春公」が開催され、人形劇ファン、損保ジャパン日本興亜の関係者など約80人が参加しました。安田氏はまず、公演に先立ち観劇した文楽人形オペラ『おさん伊八～睦月連理玉椿』について、享保年間に名古屋で作られたこの浄瑠璃が、江戸でも大人気となり、そこから今日の常磐津、清元、新内などが生まれた意味、また、詞章は残っていても曲の失われた浄瑠璃がオペラという形で甦ったのは、当時の上演が偲ばれて意味深かったと報告されました。



しかし、そこから何も動き出さず、文楽人形による劇とオペラ、どう融合すれば面白くなるのか、浄瑠璃の文語体セリフ運びをどう表現するか、心中へと向かう恋の物語をどう創り上げるか、様々な問に対する定かな答がないまま、ひとまず台本をまとめ、くりもとさんに投げてしまいました。音楽が出来て、稽古に入れば、不明な答もきくと見つかってくるに違いないと、高をくったのです。ありがたいことに、くりもとさんの音楽やむすび座さんの操演される人形が、振付の工藤さんが、出演者が、スタッフが、演出の道筋を示してくれ、答を導いてくれて、一つの作品として結実して、大いに満足のものとなりました。

その上演後、『シェイクスピアが笑う夜～リア王から』、人形劇団むすび座の『父と暮せば』と、2作品を拝見しました。非常に面白く刺激的な出会いでした。人形と人間の創り出す舞台は、間違いなく魅力に溢れている、幼子が、人形遊びに興じるように、私ももっともっと戯れたいと切に思いました。

文楽人形オペラ『おさん 伊八～睦月連理玉椿～』
台本・演出 齋藤敏明

さらに名古屋からこういった優れた文化が発信できたのは、この町は経済活動のために造られた町で、お城も金の鯨に象徴されるように戦争のための城ではないこと、京都に次ぐ碁盤の目が整備されて商業活動に便利だったこと、文化を支える活発な経済活動があったことを強調されました。

また、今まで倭約令の八代将軍吉宗と規制緩和の尾張徳川藩主宗春は敵対関係かのように伝えられてきたが、実は交流も深く仲は決して悪くなく、今後見直しの必要があることも力説されました。

文化と経済の結びつきについては、わたしたち損保ジャパン日本興亜と愛知人形劇センターが推進するメセナ活動にも共通することで、2020年に向けての「創造列島」の活動にもはずみがつきました。

報告：木村繁

いいだ人形劇センター 愛知人形劇センター共同製作
子どものためのハチャメチャシェイクスピア?

『シェイクスピアが笑う夜～リア王から』



海外招へい作品 クレドシアター CREDO THEATRE 『The Overcoat(外套)』

原作：ゴッロー
演出：ニーナ・デミトロワ



2015年夏頃から1月～2回の稽古を重ねてきた『リア王』。名古屋と飯田の人形劇俳優やミュージッククラウン、人形劇作家、実験音楽家などが集まり「子ども向けの喜劇的なリア王」を三都市で上演しました。

原作『リア王』は4時間を超える大作です。子どもの集中力が保てる1時間以内にまとめるため、「自分が子供の時、どんな演劇なら楽しめたろうか?」を基準に脚色しました。この作戦は成功し、ジャグリングやチャンバラなど賑やかなシーンは大好評。しかし「道徳的な“だけ”の作品にはしない」と決めていたため、謀略や戦争はそのままに、リア王と娘たちの「家族の物語」として描きました。笑いもあるけれど、あくまで悲劇としたのです。結果、リア王が嵐の荒野で彷徨うシーンで泣いてしまう子もいましたが、親であるリアと子であるコーディリアが過ちの末に邂逅する姿に、感動した子も多かったようです。

そこに到るまでの稽古は困難の道程でした。全員で人間と人形の関係について話し合いを重ね、方向性が定まってからも、俳優としても人形としても演じる「出遣い」を成立させるため、どんな魅せ方が適切なのか話してはやってみて話してはやってみて……。今回の創作過程を通じ、やはり人形劇とは広義的な意味で「演劇」の一つの手法である、と確信しました。演劇における俳優の職責を「心・技・体」と仮定すると、「技」の中に影絵・糸繰り・手遣いがあるのもいいのではないかと、逆に人形劇界は俳優として「体」を研鑽してもいいのではないかと……。いいだ人形劇フェスタでも感じたことですが、先進的で実験的な作品は多くありません。しかし、互いが持つ技術を尊重し学ぶことで、新しい

終演後には、子どもたちが舞台上の雰囲気体験できるイベントでも盛り上がった



『The Overcoat(外套)』終演後、アフター・トークを開催。クレドシアター(ブルガリア)の演出家・俳優ニーナ・デミトロワさんと、俳優のステリャン・ラデフさんに、「人類と人形の旅」human with puppetアートディレクター・木村繁が聞きました。

木村 ニーナさん、ステリャンさん、今日は刺激的な舞台をありがとうございました。ブルガリアは日本ではヨーグルトで知られていますが、お国の紹介をしてください。

ニーナ ギリシャ、トルコ、ルーマニアに接する山と川と谷、自然が美しい国です。薔薇の栽培で有名です。

木村 私も90年代に行ったのですが、薔薇の真赤なワインが忘れられません。文字はロシアと同じキリル文字ですね?

ステリャン キリル文字はブルガリアが発祥です。あとでロシアに伝わり

演劇の形も見えてくるのかもしれない。名古屋から飯田へ、飯田から名古屋へ、小劇場界から人形劇界へ、大人から子供へ、「リア王」の壮大な旅を終えそう思った一年でした。これを機に演劇界と人形劇界の交流が一層促進していけば、と思います。

劇作家・演出家 ニノキノコスター(オレンジスタ)



終演後には、子どもたちが舞台上の雰囲気体験できるイベントでも盛り上がった

木村 今日の『The Overcoat(外套)』は、下級役人アカーキエ・アカキエウッチの外套への執念がとても感じられました。

ニーナ 世界の人が良く知っている名作ですから。

木村 観客を陪審員に見立てて、事件に巻き込んでいく、ニーナさんの演出がすごい。(拍手)お二人の演技は日本のポケとツッコミ、漫才の芸のようです。

ニーナ はい、私がしゃべりまくって、ステリャンは何も言わないで、ただ笑っている。

ステリャン クラウンの芸も取り入れました。ユーモラスな動きも、高い笛のような声も、このぶかぶかな靴もクラウンの物です。

ニーナ ブルガリアでは以前はこういう演技は許されませんでした。

木村 お芝居に出てくる装置が檻にも牢獄にも見えるのですが、それがどんどん解体して、そのパーツが人形や外套になっていく。

ニーナ この装置をはじめに創りました。そして稽古の中で、それらの物に命が与えられていきました。

木村 全編を日本語で上演されました。日本語はどうやって?

ニーナ 日本語は神秘的で美しい言葉です。私たちは日本語のテキストを作ってもらい、3カ月の準備をしました。今日も3時間前からトレーニングしました。陪審員になってくださった観客の皆さま、ありがとうございました。

「人類と人形の旅」human with puppet アートディレクター 木村繁

P新人賞2016 一次選考会終わる

P新人賞2016一次選考会が終了しました。今年は、9作品の応募があり、9月29日の一次選考会において、以下の団体が2月25日(土)・26日(日)に開催される最終選考上演会へ進むこととなりました。

今年度のP新人賞最終選考上演会は2日間2ステージです。選考会は、2月26日(日)の上演会終了後、公開形式で行います。みなさまのご来場をお待ちしています。

【最終選考上演団体】
影の色彩ワンプロジェクト(石川県)
トランク機械シアター(北海道)
小さな劇場屋さん(福岡県)

間もなく開催のイベント案内

朗読桜通り亭2016

第一夜
太宰治『葉桜と魔笛』／森鷗外『最後の一句』
竹元まき子(ことばの会えくせるしあ)
11月8日(火)14:00
前売2500円 当日2800円



竹元まき子

第二夜
谷崎潤一郎『春琴抄』
朗読パフォーマンスユニットCR(大栗幸子／世良久美子)
11月14日(月)14:00
前売・当日2000円
三味線演奏：川瀬由里(生田流箏曲正統社大師範)



大栗幸子 世良久美子

第三夜
夏目漱石『夢十夜』／芥川龍之介『蜘蛛の糸』
石田麻利子、大島守人、鈴木孝治、加藤咲子
11月15日(火)15:00／19:00
前売2000円 当日2500円
作曲・ヴァイオリン演奏：宗川論理夫



石田麻利子